

平成 26 年度 認定中心市街地活性化基本計画のフォローアップに関する報告

平成 27 年 3 月
熊本市（熊本県）

○計画期間:平成 24 年 4 月～平成 29 年 3 月(5 年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 平成 26 年度終了時点(平成 27 年 3 月 31 日時点)の中心市街地の概況

本市の人口動態推移は、平成 23 年以降、九州新幹線の全線開業や政令指定都市への移行等の効果により、社会動態において人口増が続いており、人口減少に転じる時期が遅くなっている。また、平成 24、25 年度は、企業立地件数が過去最高となり、新規雇用予定者数は 1,000 人を超えるなど、本市のポテンシャルの高さを示している。さらに、中心市街地においては、空き店舗数が減少し、歩行者数も徐々に増加するなど、にぎわいが創出されている。しかし、郊外には複数の大規模商業施設が立地し、近隣型ショッピングセンターの新規出店も相次いでいることから、人の流れが中心市街地から郊外へシフトしている現状は解消されていない。

そのような中、桜町地区では、老朽化したバスターミナルの建て替え、商業施設等の整備が再開発事業により行われるとともに、本市もにぎわい創出や交流人口の増加のための要となる拠点施設として（仮称）熊本城ホールを整備する計画であるが、平成 30 年秋の事業完成までの間、中心市街地のにぎわいを維持していくことが大きな課題である。

本市においては、花畑地区の産業文化会館跡地に整備される（仮称）花畑広場の利活用により、魅力あるイベント等の実施・誘導を図っていくものであり、さらに、中心市街地活性化協議会においても、今年度、回遊性向上検討専門部会が設置される予定であり、本市も連携協力を行い、再開発事業期間中のにぎわい創出に取り組んでいくこととしている。

また、熊本駅周辺地区では、平成 23 年度に情報交流拠点「くまもと森都心プラザ」が、平成 24 年度にはタワーマンション等が整備され、にぎわいの創出に大きく寄与しており、それ以降、民間開発が誘発され、マンションの建設も次々と進められている。今後、平成 30 年完成予定の連続立体交差事業に加え、平成 31 年春頃、民間事業者による大規模な開発が着手される予定となっており、本市の玄関口として相応しい新たな集客・回遊の拠点機能となり、更なるにぎわいが創出される見込みである。

本市としても、民間事業者による開発が完了するまでの間、桜町・花畑地区の拠点性をより一層高めるとともに、中心商店街と熊本駅との距離が約 2km あり、一体的なまちづくりが懸念されていることから、基本計画の事業を着実に進め、双方の回遊性を高めることで、熊本駅を含めた中心市街地全体の更なるにぎわい創出に向けて取り組んでいくものである。

2. 平成 26 年度取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

九州新幹線の全線開業と政令指定都市移行により、都市としての魅力が向上したことに加え、基本計画に沿った行政及び民間のさまざまな取り組みの実施により、歩行者・自転車通行量と市電の利用者数は目標値を上回る効果が見られるなど、基本計画の数値目標はおおむね順調に推移

していると評価している。

一方で、中心市街地の2核3モール※の1核である桜町地区の再開発に伴い、平成27年初めに2つの商業施設が相次いで閉店し、再開発事業が完了する平成30年秋までの3年半の間、中心市街地の1核が消滅することになる。

直近の課題としては、消滅する1核の隣地に新たに整備された（仮称）花畑広場を活用した桜町・花畑周辺地区のにぎわい創出であり、協議会の幹事会に商店街・関係事業者・行政等が参画する専門部会を設置し、短期集中的に検討を行い、対応策を実施する計画である。

さらに、中長期的な課題として、熊本駅0番線跡地で計画中の民間事業者による大規模開発を視野に、広域からの集客をいかにして中心商店街に呼び込むのかなど、中心市街地の更なる魅力向上に向けて検討し、持続的に発展する中心市街地を目指して活動していく。

※2核3モール：通町・桜町の2つの核とこれを結ぶ上通・下通・新市街の3つのアーケード街を示す。

II. 目標毎のフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	前回の見通し	今回の見通し
人々が活発に交流しにぎわうまち	中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量	277,017 人 /日 (平成 22 年度)	310,000 人 /日 (平成 28 年度)	314,272 人 /日 (平成 26 年度)	—	①
城下町の魅力があふれるまち	熊本城入園者数	1,440,355 人/年 (平成 22 年度)	2,000,000 人/年 (平成 28 年度)	1,631,690 人/年 (平成 26 年度)	—	②
誰もが気軽に訪れることができるまち	市電の利用者数	9,537,000 人/年 (平成 22 年度)	10,525,000 人/年 (平成 28 年度)	10,876,776 人/年 (平成 26 年度)	—	①

<取組の進捗状況及び目標達成に関する見通しの分類>

- ①取組（事業等）の進捗状況が順調であり、目標達成可能であると見込まれる。
- ②取組の進捗状況は概ね予定どおりだが、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。
- ③取組の進捗状況は予定どおりではないものの、目標達成可能と見込まれ、引き続き最大限努力していく。
- ④取組の進捗に支障が生じているなど、このままでは目標達成可能とは見込まれず、今後対策を講じる必要がある。

2. 目標達成見通しの理由

①人々が活発に交流しにぎわうまち

中心商店街における路面改修等のハード事業及びにぎわい創出に資するイベント等のソフト事業を継続的に実施した。また、熊本駅周辺地区の整備や企業立地の推進事業により中心市街地ににぎわいが創出された。

②城下町の魅力があふれるまち

熊本城第Ⅱ期復元整備事業において、馬具櫓及び続塀の整備を実施した。また、海外に向けたプロモーション活動の展開による外国人観光客の増加や中心市街地でのイベントにより熊本城入園者数は年々増加しているものの、今後、熊本城に隣接する「桜の馬場 城彩苑」と一体となった入園者数増加の取り組みが必要である。

③誰もが気軽に訪れることができるまち

平成 26 年 3 月から市電に交通系 IC カードが導入され利便性の向上が図られた。また、電停改良事業や新型超低床電車導入事業が進められ、バリアフリー化の取り組みが行われた。

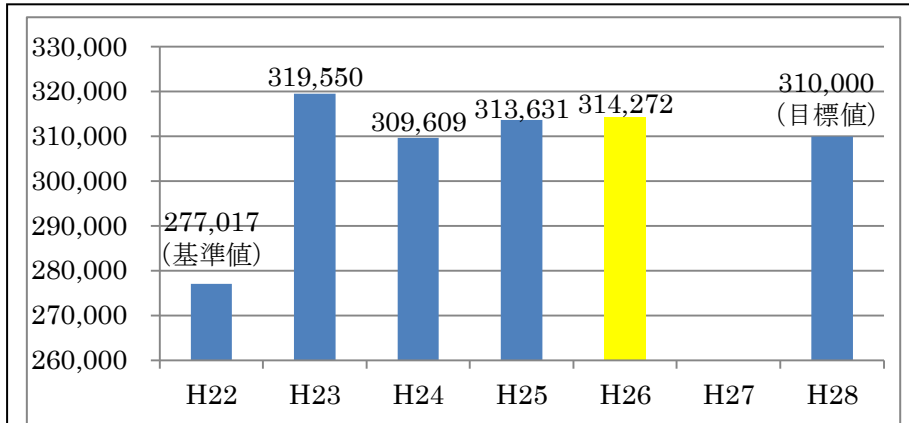
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回フォローアップは実施していない。

4. 目標指標毎のフォローアップ結果

「中心市街地の商店街歩行者・自転車通行量」※目標設定の考え方基本計画 P46～P58 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	277,017 (基準年値)
H23	319,550
H24	309,609
H25	313,631
H26	314,272
H27	
H28	310,000 (目標値)

※調査方法：調査地点を通過する対象者数を進行方向別に5分間計測、計測値に12を乗じて1時間の通行量を換算・推計し、1日(12時間)の通行量を算出

※調査月：平成26年10月

※調査主体：熊本市、熊本商工会議所

※調査対象：計測地点28か所における歩行者及び自転車(中学生程度以上)通行量の2日間(金曜日と日曜日)の平均値

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 花畑地区広場整備事業(事業主体：熊本市)

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	中心市街地のにぎわいの核となる広場整備を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>桜町・花畑周辺地区のにぎわい創出と中心市街地の回遊性の拠点となるよう暫定的な運用を行い、再開発事業完了後は、隣接するシンボルプロムナードと一体となって市民等が憩い・集いたくなるような空間を形成する。また、市民等が気軽に使用でき、また日常においても寛げる空間となるよう芝生や人工芝等による整備を行い、桜町・花畑周辺地区のにぎわいを創出する。</p> <p>【スケジュール(見込)】</p> <p>平成26年度 旧産業文化会館解体</p> <p>平成27年度 整備計画作成</p> <p>平成28年度 基本設計</p> <p>平成29年度 実施設計</p> <p>平成30年度 整備着手</p>

②. 市街地再開発等事業(桜町地区)(事業主体：民間事業者)

事業完了時期	平成30年度【未】
事業概要	民間事業者の再開発事業により、バスターミナル、商業施設、(仮称)熊本城ホール等の整備を行う。
事業効果及び進	人・モノ・情報の交流拠点となるランドマーク施設の整備、広域バス

捗状況	<p>ターミナルや商業施設等の機能更新により、桜町・花畑周辺地区のにぎわいの創出を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成 26 年度 基本設計・実施設計・権利変換計画作成・測量等</p> <p>平成 27 年度 解体工事・建設工事・工事監理</p> <p>平成 28 年度 建設工事・工事監理</p> <p>平成 29 年度 建設工事・工事監理</p> <p>平成 30 年度 施設工事・施設完成</p>
-----	--

③. 【追加】優良建築物等整備事業（下通 A 地区）（事業主体：民間事業者）

事業完了時期	平成 28 年度【未】
事業概要	優良建築物等整備事業を活用し、老朽化した 2 棟の建物の共同建替を行う。
事業効果及び進捗状況	<p>耐震上、早急な建て替えが望まれる老朽化した建物の建て替えを行い、地区の安全性、防災性の向上を図る。また、熊本城方面から下通へ通り抜けが可能な歩行者空間の確保や外向き店舗を配置することで、通りからのにぎわい創出を図る。</p> <p>【スケジュール（見込）】</p> <p>平成 26 年度 基本設計・実施設計、解体工事</p> <p>平成 27 年度 解体工事、建設工事</p> <p>平成 28 年度 建設工事、施設完成 施工完了</p>

④. 中心市街地空き店舗等総合活用事業（事業主体：熊本市又は民間事業者）

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	中心市街地（上通、下通、新市街他）における空き店舗数が増加傾向にあることから、空き店舗等の利活用を図るための支援措置を講じる。		
事業効果及び進捗状況	<p>商店街の空き店舗に入居する際の費用及びその後の家賃の一部を補助することにより、空き店舗の解消に向けて取り組む。</p> <p>空き店舗率は改善傾向にあり、平成 26 年度は、入り店舗数も 5 店舗増加している（目標数値の設定時も同数の増加を見込む）。入り店舗数の増加により集客が図られ、歩行者通行量が増加している。</p> <p>【中心市街地商店街空き店舗率】</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>平成 22 年度（基準値）：11.4%（42 店／370 店）</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度（最新値）：7.2%（26 店／359 店）</td> </tr> </table>	平成 22 年度（基準値）：11.4%（42 店／370 店）	平成 26 年度（最新値）：7.2%（26 店／359 店）
平成 22 年度（基準値）：11.4%（42 店／370 店）			
平成 26 年度（最新値）：7.2%（26 店／359 店）			

⑤. (仮称) 上通 3・4・5 丁目アーケード ECO 改修事業(事業主体：上通 3・4 丁目商店街振興組合、上通 5 丁目商店街振興組合)

事業完了時期	平成 25 年度【済】		
事業概要	整備後 10 数年が経過したアーケード改修を行うとともに、照明の LED 化及び防犯カメラの増設を行う。		
事業効果及び進捗状況	<p>来街者に安全・安心で環境にやさしい空間を提供するため、劣化したアーケード天井部のポリカーボネイト改修を行うとともに、アーケード照明の LED 化及び防犯カメラの増設等を実施し、商店街の魅力が向上した。</p> <p>【上通及び上通周辺地区の通行量】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 22 年度 (基準値) : 58,550 人</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度 (最新値) : 61,703 人</td> </tr> </table>	平成 22 年度 (基準値) : 58,550 人	平成 26 年度 (最新値) : 61,703 人
平成 22 年度 (基準値) : 58,550 人			
平成 26 年度 (最新値) : 61,703 人			

⑥. (仮称) 下通新天街アーケード照明 LED 化及び路面改修事業 (事業主体：下通新天街商店街振興組合)

事業完了時期	平成 25 年度【済】		
事業概要	整備後 20 数年が経過した下通新天街エリアの路面改修を行うとともに、アーケード照明の LED 化を図る。		
事業効果及び進捗状況	<p>「安全な歩行環境」の整備事業として、路面改修等を行うとともに、「夜も安心できる明るいアーケード環境の整備」による防犯体制強化事業として、アーケードライトの LED 化、防犯カメラの設置等を実施し、商店街の魅力が向上した。</p> <p>【下通及び下通周辺地区の通行量】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 22 年度 (基準値) : 158,611 人</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度 (最新値) : 166,898 人</td> </tr> </table>	平成 22 年度 (基準値) : 158,611 人	平成 26 年度 (最新値) : 166,898 人
平成 22 年度 (基準値) : 158,611 人			
平成 26 年度 (最新値) : 166,898 人			

⑦. (仮称) 中心市街地公衆無線 LAN 整備事業(事業主体：熊本まちなか Wi-Fi 化協議会他)

事業完了時期	【実施中】		
事業概要	上通・下通・新市街とその周辺商店街エリアに、中心商店街が主体となって、公衆無線 LAN の整備を行う。		
事業効果及び進捗状況	<p>上通・下通・新市街の各商店街が費用を負担し、試験的に公衆無線 LAN の運用を行い、これを活用してさまざまな情報を発信し、中心市街地の活性化を図っている。</p> <p>【アクセスポイントの設置数】 上通 6 箇所、下通 8 箇所、新市街 3 箇所</p> <p>【平成 27 年 3 月における利用者数と前年同月との比較】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 26 年 3 月 : 4,001 人</td> </tr> <tr> <td>平成 27 年 3 月 : 9,109 人</td> </tr> </table>	平成 26 年 3 月 : 4,001 人	平成 27 年 3 月 : 9,109 人
平成 26 年 3 月 : 4,001 人			
平成 27 年 3 月 : 9,109 人			

⑧. 熊本駅前東 A 地区関連事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	（熊本駅前東 A 地区市街地再開発事業）平成 20 年度【済】 （暮らし・にぎわい再生事業（熊本駅前東 A 地区））平成 24 年度【済】
事業概要	公共公益施設、商業業務施設、共同住宅等の整備を一体的に行う。
事業効果及び進捗状況	<p>情報交流拠点「くまもと森都心プラザ」やタワーマンション等の整備により、情報発信・にぎわいの創出・駅に近接した中心市街地での都心居住が図られた。また、情報交流施設の利用者数は増加しており、特に図書館の利用者数が伸びていることから、熊本駅周辺地区の歩行者通行量の増加に寄与している。</p> <p>【情報交流施設利用者数】</p> <p>平成 25 年度：1,052,109 人（うち図書館利用者 758,068 人） 平成 26 年度：1,109,252 人（うち図書館利用者 800,840 人）</p> <p>【熊本駅周辺地区 2 地点の通行量】</p> <p>平成 22 年度（基準値）：3,485 人 平成 26 年度（最新値）：10,327 人</p>

⑨. 新熊本合同庁舎整備事業（事業主体：国）

事業完了時期	（A 棟）平成 19 年度～平成 22 年度（供用開始 H23.2）【済】 （B 棟）平成 24 年度～平成 26 年度（供用開始 H26.10）【済】
事業概要	熊本駅周辺地区の南の回遊拠点として、坪井川や市電の電停とあわせた憩いとやすらぎの空間の創出を図る。
事業効果及び進捗状況	<p>熊本駅にふさわしいアメニティ空間が形成されるとともに、拠点施設としてにぎわいの創出が図られた。</p> <p>【A 棟、B 棟を合わせた職員数及び来庁者数（平成 27 年 3 月現在）】</p> <p>職員数：約 2,200 人 来庁者数：約 1,000 人／月</p>

⑩. 企業立地促進事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	【実施中】
事業概要	企業立地を促進するため、ホームページやパンフレット等を活用した広報活動や市内に事業所を新設・増設・移設する企業に対する支援措置を講ずる。
事業効果及び進捗状況	<p>中心市街地における企業立地件数は増加傾向で、平成 22 年度以降の新規雇用予定者数は約 2,000 人となり、中心市街地のにぎわい創出に寄与している。職種としてはコールセンター・事務センター等が多い。</p> <p>なお、市内全体の企業立地件数においても、平成 22 年度には 8 件であったが、平成 26 年度には 14 件まで増加しており、製造業やコールセン</p>

タ一等の職種を中心に、さまざまな企業が進出している。

【中心市街地における企業立地件数】

平成 22 年度 : 1 件	平成 25 年度 : 7 件
平成 23 年度 : 1 件	平成 26 年度 : 6 件
平成 24 年度 : 5 件	

⑪. 自転車駐車場整備等補助事業（事業主体：熊本市）

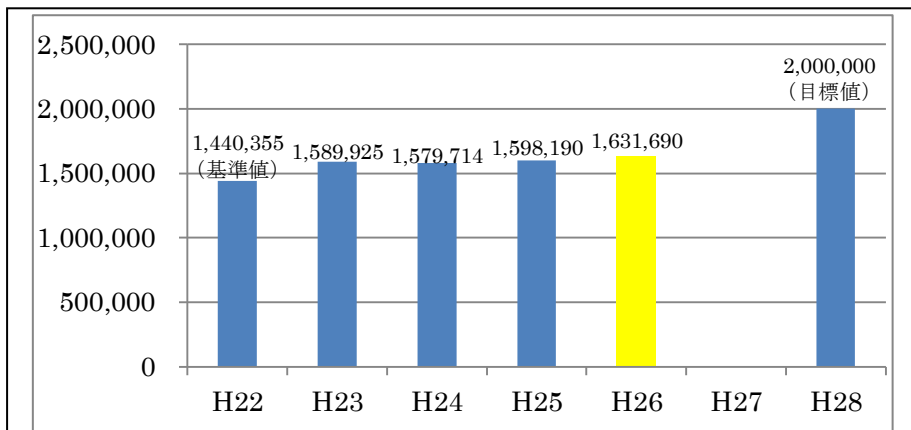
事業完了時期	平成 28 年度【未】														
事業概要	中心市街地の駐輪場不足を解消するため、民営駐輪場を新たに整備した民間事業者や短時間（2 時間以内）の駐輪場利用者について料金を徴収しない民間事業者に対し、要綱に基づき整備費の一部を補助する。														
事業効果及び進捗状況	<p>平成 24 年度に民間駐輪場 11 箇所の整備は完了し、平成 28 年度までの 5 年間にわたって補助を行う。</p> <p>駐輪場の整備により、自転車利用者の利便性が向上し、放置自転車数も大幅に減少している。利用者をより中心市街地へ呼び込むことにつながっており、安全・安心で快適に歩くことができる歩行者空間や都市景観の改善を実現している。</p> <p>【中心市街地の駐輪場設置数】 市営 5 箇所、民営 11 箇所</p> <p>【中心市街地の駐輪場利用台数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>市営</th> <th>民営</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 25 年度</td> <td>1,133,723 台</td> <td>1,358,574 台</td> <td>2,492,297 台</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度</td> <td>1,150,072 台</td> <td>1,349,895 台</td> <td>2,499,967 台</td> </tr> </tbody> </table> <p>【中心市街地の放置自転車数の調査結果（年 1 回実施）】</p> <table border="1"> <tr> <td>平成 22 年度 : 1,857 台</td> </tr> <tr> <td>平成 26 年度 : 63 台</td> </tr> </table>	年度	市営	民営	合計	平成 25 年度	1,133,723 台	1,358,574 台	2,492,297 台	平成 26 年度	1,150,072 台	1,349,895 台	2,499,967 台	平成 22 年度 : 1,857 台	平成 26 年度 : 63 台
年度	市営	民営	合計												
平成 25 年度	1,133,723 台	1,358,574 台	2,492,297 台												
平成 26 年度	1,150,072 台	1,349,895 台	2,499,967 台												
平成 22 年度 : 1,857 台															
平成 26 年度 : 63 台															

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・各商店街における路面改修等のハード事業及びにぎわい創出に資するイベント等のソフト事業の継続実施に伴い、目標達成可能であると見込まれる。
- ・商店街歩行者・自転車通行量は、平成 23 年度以降、目標値を上回る状況で推移しており、本市が毎年実施している「市政に関するアンケート調査」（平成 25 年度調査）においても、中心市街地ににぎわいがあると感じている人が 41.3%と平成 22 年度に比べて 6.0 ポイント増加している。
- ・一方、平成 26 年度に商業施設が相次いで閉店し、今後のにぎわいの低下が懸念されている。そのため、にぎわい創出に寄与する既存のハード及びソフト事業に加え、（仮称）花畑広場を活用し、年間を通じた定期的なイベント等の実施を計画している。
- ・中心市街地の優れた交通利便性、安全安心の居住空間や豊かな自然などを理由に、企業が進出しており、引き続き空き店舗の活用や企業立地に対する支援を行っていく。

「熊本城入園者数」※目標設定の考え方基本計画 P59～P65 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	1,440,355 (基準年値)
H23	1,589,925
H24	1,579,714
H25	1,598,190
H26	1,631,690
H27	
H28	2,000,000 (目標値)

※調査方法：熊本城入園者数の集計による算出

※調査月：平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月

※調査主体：熊本市

※調査対象：熊本城入園者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 熊本城第Ⅱ期復元整備事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	平成 29 年度【未】
事業概要	平成 20 年度から平成 29 年度までの 10 年間を目処に、行幸坂から見た往時の熊本城の復元整備を図るため、「馬具櫓一帯」、「西櫓御門及び百間櫓一帯」、「平左衛門丸の塀」の区域の整備を進める。
事業効果及び進捗状況	平成 26 年度に馬具櫓及び続塀の整備が終わり、今後も継続して事業を進めていく。熊本の歴史・文化を象徴する熊本城を復元整備し、中心市街地と調和した都市空間の再生を図る。

②. 中心市街地活性化推進事業（事業主体：熊本商工会議所、中心商店街等連合協議会、城下町大にぎわい市実行委員会、ストリート・アート・プレックス実行委員会他）

事業完了時期	【実施中】										
事業概要	年間を通して行われるストリート・アート・プレックスや四季折々に街なかのにぎわいを創出する、「城下町くまもとゆかた祭り」、「城下町くまもと銀杏祭」、「はしご酒」、「大にぎわい市」、「光のページェント」等を開催する。										
事業効果及び進捗状況	<p>まちの文化、芸術の継続的な発信や事業者、商店街等が連携して、中心市街地の魅力向上につながるイベントを季節ごとに実施し、街なかのにぎわいを創出する。</p> <p>【ストリート・アート・プレックス】 開催数：通算 199 回（毎年 20 回程度）</p> <p><集客数></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成 22 年度</th> <th>平成 23 年度</th> <th>平成 24 年度</th> <th>平成 25 年度</th> <th>平成 26 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25,295 人</td> <td>34,939 人</td> <td>30,732 人</td> <td>36,604 人</td> <td>37,807 人</td> </tr> </tbody> </table>	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	25,295 人	34,939 人	30,732 人	36,604 人	37,807 人
平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度							
25,295 人	34,939 人	30,732 人	36,604 人	37,807 人							

【城下町くまもと銀杏祭】 開催数：通算 11 回（毎年 10 月）

<集客数>

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
22,816 人	37,108 人	39,940 人	53,082 人	56,064 人

【城下町大にぎわい市】 開催数：通算 11 回（毎年 10 月）

<集客数>

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
126,330 人	156,984 人	168,400 人	201,906 人	72,466 人

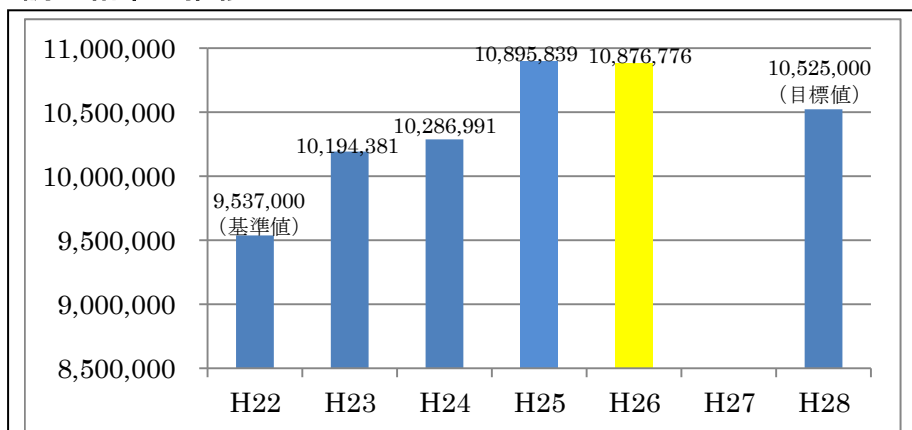
※平成 26 年度は台風の接近により初日のみ開催。

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・海外に向けたプロモーション活動の展開による外国人観光客の増加が見られ、外国人入園者数が、平成 22 年度の 161,472 人（入園者数の 11.2%）から、平成 26 年度には 280,691 人（入園者数の 17.2%）と増加した。その効果により、基準値（平成 22 年度）を上回っているが、目標値までは届いておらず、目標達成可能とは見込まれない。
- ・「桜の馬場 城彩苑」の入場者数は、開業当初の平成 23 年度においては、年間約 130 万人を記録し、ここ最近でも年間約 100 万人は維持しているため、熊本城と一体となり、熊本城入園者数の増加につなげる。
- ・今後は、引き続き熊本城第Ⅱ期復元整備事業を進めていくとともに、中心市街地でのイベントにより熊本城一帯の魅力を高め、さらに、武将隊の活用や大手旅行会社とのツアー企画連携も行い、国内外からの観光客の誘致を図る。特に、海外に向けたプロモーション活動は重点的に行い、ホームページの多言語化（英・中・韓）などを行うことで更なる効果を上げていく。

「市電の利用者数」※目標設定の考え方基本計画 P66～P71 参照

●調査結果の推移



年	(単位) 人
H22	9,537,000 (基準年値)
H23	10,194,381
H24	10,286,991
H25	10,895,839
H26	10,876,776
H27	
H28	10,525,000 (目標値)

※調査方法：市電運賃収受の集計による算出

※調査月：平成26年4月～平成27年3月

※調査主体：熊本市交通局

※調査対象：市電の利用者

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 超低床電車導入事業（事業主体：熊本市交通局）

事業完了時期	平成26年度【済】
事業概要	超低床電車を7編成14両所有していたが、誰もが利用しやすい市電とするため、新型超低床電車（COCORO）を1編成2両導入する。
事業効果及び進捗状況	新型超低床電車は、出入口付近の床面高さが30cmで、車いす用の電動リフトを装備している。バリアフリー化により、誰もが乗降しやすいものとなり、市電の利用者数の増加に寄与している。

②. 市電車両リフレッシュ事業（事業主体：熊本市交通局）

事業完了時期	平成27年度【未】
事業概要	旧型車22両の市電のステップ改良（嵩上げ）や窓ガラスの取り替え等を実施する。
事業効果及び進捗状況	平成26年度までに旧型車22両のうち17両の改修が終わり、平成27年度に残りの5両を改修する。利便性の向上を図ることにより誰もが乗降しやすいものとなり、市電の利用者数の増加に寄与している。

③. 電停改良事業（事業主体：熊本市）

事業完了時期	平成28年度【未】
事業概要	市電の利便性向上のため、電停のバリアフリー化を行う。
事業効果及び進捗状況	平成22年度に新水前寺駅結節強化事業、平成23年度に九品寺交差点、平成24年度に市立体育館前、平成26年度に交通局前及び熊本城・市役所前の各電停の改良が完了し、今後も引き続き事業を実施していく。 電停のバリアフリー化により、市電の利用促進及び利便性向上が図られ、市電の利用者数の増加に寄与している。

【電停改良を行った3駅の乗降人数】

年度	新水前寺駅前	九品寺交差点	市立体育館前
平成22年度 (基準値)	2,960人	1,406人	629人
平成26年度 (最新値)	4,391人	1,828人	951人

●目標達成の見通し及び今後の対策

- ・交通系 IC カードの導入による利便性の向上及び電停改良や新型超低床電車導入などのバリアフリー化の取り組み等により、目標達成可能であると見込まれる。
- ・本市では、将来的な人口減少、超高齢社会への対応に向け、「熊本市公共交通ランドデザイン（平成24年3月策定）」において、市電を基幹的な公共交通機関として位置づけている。また、昨年4月には、市民・事業者・行政それぞれの役割、基本的施策等を定めた「熊本市公共交通基本条例」を施行し、その具体化に取り組んでいる。
- ・市電が、熊本城と並ぶ本市の観光資源の一つとなっており、広く利用されていることから、より一層の利便性向上を図り、目標指標に関連する各事業との連携を強化していく。